

平成 25 年度 第 3 回 水工学委員会幹事会 議事録 (案)

日 時：平成 25 年 11 月 7 日 (木) 12:00～13:00

場 所：土木学会講堂 (東京都新宿区四谷一丁目外濠公園内)

出席者：道奥 (委員長)、立川 (幹事長)、知花 (編集幹事長)

幹事：浅沼、石平、神田(学)、角、関根、田中(規)、戸田、二瓶、中津川、八田、武藤、横山

編集委員：泉、市川、梅田、大石、大槻、鬼束、川池、里深、田中(仁)(代理：渡辺(一))、

田中(昌)、原田、藤田(一)、中北、福濱、矢島、渡邊(康)

オブザーバー：竹林、松田

議 題：

《報告事項》

1. 各部会, 小委員会の活動報告

● 基礎水理部会 (資料 1)

◇ 基礎水理シンポジウム 2013 について

◇ 開催期日：2013 年 12 月 2 日

◇ 開催場所：土木学会講堂

● 河川部会 (資料 2)

◇ 2014 年度河川技術に関するシンポジウムについて

◇ 開催期日 2014 年 6 月 5 日 (木)・6 日 (金)

◇ 開催場所 東京大学農学部 弥生講堂 (文京区弥生 1-1-1)

◇ 「社会インフラ維持管理・更新の重点課題検討特別委員会」報告テキストブック
作成について

● 水害対策小委員会報告 (資料 3)

◇ 土木学会伊豆大島緊急調査団への参加

◇ 京都・滋賀水害調査団速報会実施 (11 月 6 日、キャンパスプラザ京都)

◇ 山口・島根水害調査団報告会 (11 月 18 日、山口県教育会館)

◇ 河川災害シンポジウムについて:今年には災害が多数発生したため、報告が多くなる。
中北地球環境水理学小委員長と相談の上、アゲールシンポジウムと柔軟に時間を融
通して、災害報告を充実させることとなった。

● 流域管理と地域計画の連携方策に関するワークショップについて (主催：土木学会流域管
理と地域計画の連携方策研究小委員会 12 月 16 日(月)午後 2 時から、土木学会講堂) (資
料 4)

2. その他

- 水理公式集（平成 28 年度版）発刊のための出版委員会への申請を行った。10 月 29 日にヒアリングがあり、知花幹事長が出席した。出版委員会への申請内容は以下の通り。（資料 5、6）
 - ◇ 水理公式集改訂小委員会 委員長：辻本 哲郎
 - ◇ 書名（仮称）：水理公式集 [平成 28 年版]
 - ◇ 発刊予定日：平成 28 年 3 月 31 日
 - ◇ 事務局への原稿提出：平成 27 年 10 月 1 日頃
 - ◇ 編集委員会。H25 年度 1 回、H26 年度 2 回、H27 年度 2 回、各回 50 万円を申請
- 平成 25 年度水工学委員会主催・共催行事（資料 7）

《協議事項》

1. 平成 25 年度 第 58 回水工学講演会の開催について（大石委員）
 - 神戸大学を共催とすれば会場費は半額となるが、土木学会が評価する活動度も 50% となってしまうため、会場費は定額を支払うこととした。企画展示が現時点で 5 件あり、この収入を会場費の一部に充てる予定である。
2. 平成 26 年度 水工学に関する夏期研修会（2014・水工学委員会担当）について
 - 日時：平成 26 年 8 月 25 日（月）、26 日（火）
 - 会場：九州工業大学
 - 水害や河川防災技術をコーステーマとして、サブテーマを検討中
3. 平成 26 年度 水シンポジウム長崎について
 - 平成 25 年 11 月 12 日。長崎市にて第一回実行委員会・第一回企画委員会
 - 日時（予定）：平成 26 年 8 月 21 日（木）シンポジウム、22 日（金）現地見学会
 - 会場（予定）：長崎ブリックホール（大ホール 1,225 席 国際会議場 300 席）
4. 平成 26 年度 第 59 回水工学講演会の開催について（関根委員）
 - 早稲田大学での開催で検討を進めている。
5. その他
 - 水工学委員会の説明文について（立川幹事長、資料 8）水工学委員会は何を目的とし、何をするとところかを問われた際に、それを簡潔に文章で示したものがない。内規には、明確に水工学委員会の目的・活動が記述されているが、水工学委員会内部用の記述となっていて、土木学会以外の人々には、分かりにくい文章となっている。そこで、内規を補って土木学会以外の人々にもイメージを持ってもらえるような文章を考えることとした。問題がなければ水工学委員会ホームページの「水工学委員会について」に入れたい。

水工学委員会について（案）

水工学委員会は、河川や水資源に関する工学とそれらに関連する諸課題の調査・研究、それらの推進・情報共有を図ることを目的として活動しています。専門分野別に構成される四部会（水文部会、基礎水理部会、環境水理部会、河川部会）での研究・調査活動を始めとして、突発的な水害調査を担当する水害対策小委員会、地球温暖化などの地球環境変化と水問題を扱う地球環境水理学小委員会など分野横断的な小委員会活動を実施しています。また、水工学に関する書籍や論文集を編集し、水工学講演会、河川技術に関するシンポジウム、水工学に関する夏期研修会等を開催して、最新の水工学に関する知見の情報共有を図っています。さらに、水シンポジウムを各都道府県で開催し、市民・学会・行政・民間が一同に会して水に関する諸問題をともに議論し、相互理解と情報共有を図る機会を提供しています。

● 土木学会論文集編集委員会編集調整会議からの報告（関根委員）

◇ 前幹事会で議題となった論文取り下げについて

J - Stageにより示されている「記事データの訂正・修正等についての推奨基準」の中に定められている「記事撤回」の手続きに従い対応することとなった。これに合わせて、次に水工学論文集のCD版論文集にも取り消しの記事を掲載することとなった。

◇ J - Stageに掲載されている水工学論文集(前身誌, 1990 - 2008)の英語名称について

1990～1994年の水工学論文集はProceeding of Hydraulic Engineeringという名称で登録・発行されていた。1995年度以降はAnnual Journal of Hydraulic Engineeringという今の名称に変更したが、J - Stage側にはそれが伝わっておらず、上記の名称のままになっている。他の特集号も同様の問題を抱えており、土木学会論文集編集委員会執行部がこれを確認し、可能であれば変更について相談すること。現実的には、この情報で公開されているため、修正は難しいとのこと。

◇ BIB - XMLファイル化に伴う変更

通常号については、MS - WORDあるいはLaTeXによる自動組版ソフトを開発中であり、これを使えばPDFファイルとともにBIB - XMLファイルも作成されることが報告された。水工学論文集のフォーマットを土木学会論文集通常号の合わせるなどを、今後検討していく必要がある。

○第2回水工学論文集小委員会

1. 査読結果の審議

査読結果を審議し、採否を決定した。